

# エンカウンター (ENCOUNTER)

## 第 190号

平成30年2月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

カウマン夫人著『日の出に向かって』より (2)

2月2日

むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。(コリントⅡ12・9)

私たちは、肉体的な弱さにとらわれてはなりません。それは全く、身体上のことですから、肉体や魂が弱いのは罪ではありません。落胆することも罪ではありません。

クリスチャン生活は感情ではなく、信仰です。あなたの心が飛べないような時には歩くのです。もし飛ぶことも、歩くこともできないならば、その心を静めて、忍びなさい。足が不自由になった幼な子をやさしい熟練した医者のもとに運ぶように、あなたの心をキリストのもとに連れて行きなさい。そんな時、医者は子供の足が不自由になったからと言って叱るでしょうか。

エリザベス・プレンティス

2月4日

この法則に従って進む人々の上に、平和とあわれみとがあるように。  
(ガラテヤ 6・16)

フランク・ワレイン博士の名は長く、家庭で親しまれることでしょう。彼は有能なジャーナリスト、生来の人間性の研究者、有益な哲学の天才です。彼の想像力豊かな知性から、多くのすばらしい生活訓が生まれました。それらはいきいきと永続することでしょう。

死を間近にしてワレイン博士は、老人のための指針を書きました。その指針には次のように書かれています。

私が老年を迎える時、私は次の理想を—おそらく—守るでしょう。

- 1 自分の本当の年よりも若く思うように行動したり、着飾ったり、話したりすまい。
- 2 若いふりをしたり、年寄りと呼ばれて怒ったり、自分の年を恥じたりすまい。
- 3 老年であることに不平を言うまい。
- 4 人に同情され、まだ年じゃないとか、そんな年には見えないなどと言わすために、自分の年齢を人に常に思い出させようとすまい。
- 5 思い出にひたる癖はつけまい。
- 6 特に、同じことを何度も繰り返して言わないように注意しよう。

7 現在について不平を言い、むかしはずっとよかったなどと主張すまい。

8 もし、難聴、弱視、足が不自由になり、またその他の病気になっても、自分の弱さを宣伝すまい。できるだけ、人目につこうと出しゃばるようなことは避けよう。

9 自分について、自分の仕事、功績、失敗でさえ、必要以上に語るまい。

10 快活に話すか、必要が無ければ、黙していよう。

11 皮肉癖に耽って、若者を愚痴ったりすまい。むしろ、若い者たちがしてくれることに、いつも感謝するよう努めよう。

12 雄々しく、勝ち誇りながら老いていくのが、自分の人生の勝利と認めよう。

13 一言で言えば、他のあらゆる人生の場面と同様に、自分の晩年に対しても、よく対処できるようにしよう。

2月10日

だから、わたしたちはイエスによって、賛美のいけにえ、すなわち、彼の御名をたたえるくちびるの実を、たえず神にささげようではないか。(ヘブル13・15)

闇の中にいるとき、賛美せよ。

光の中に入る時も、賛美せよ。

朝に賛美せよ。夜に賛美せよ。

あなたの目が悲しみに曇っているとき、賛美せよ。

晴れた日に賛美せよ。雨の日にも

秋に賛美せよ。冬にも、春にも

賛美している限り、あなたを損なうものはない

旅する時、道が暗くても大丈夫

あなたの望みはその通り実現しなくても大丈夫

登らなければならない丘が険しくても大丈夫

未来に向かって、どんなことが起ころうとも、賛美せよ

賛美している限り、あなたを傷つけるものはない

マーガレット・サングスター

注 「賛美」 = 「称名」

2月13日

天が下のすべてのことには季節があり、すべてのわざには時がある。(伝道の書3・1)

冬、さびれて風の吹き抜ける雪の積もった庭にバラの花はありません。同様に、夏、水晶のような雪片は飛びません。それぞれの季節にはその技があり、美があります。他の季節には、その業は行われないし、美は表われません。

人間の生活にも同じことが言えます。それぞれの季節には、その務めがあり喜びがあります。もしその時手に入れようとしなかったなら、他の時には、その損失を取り戻すことはできません。それらは、薄暗い人生未踏の永遠の流れの中に流れ去ってしまいます。

その日には本当にその日の仕事があり、笑いがあり、涙があり、心の鼓動がそれぞれあります。

一日中その日だけのことを考えていれば、人生はあらゆる点でより満たされ、より富んだものになるでしょう。…ああ、私達は重荷となっている明日を心配することによって、今日の活力や強さを失っています。そのため、その仕事は行わないか、またうまくできなくなってしまう。…今日やるべき事だけをやりなさい。夕方には、十分仕事をやったという充実感に浸れるでしょう。

2月14日

門は夕方まで閉じてはならない。(エゼキエル 46・2)

あなたは、最良の時はすでに過ぎ去ったと言うのか

人生の素晴らしい時は、本当に去ってしまったのか

朝は過ぎてしまって、たそがれが近づいてくるのが悲しいのか

花や太陽の光に目をそらして

あなたが顔を陰に向けて歩き

過ぎ去った喜びのことを考えるとき

あなたの心が恐れに捕われているというのは本当か

私は言う、最良の時は目の前にある

私たちはまだ最善のものを夢見していない

近づいて来るすばらしい日々がある。

たとえ私たちの道が西へ向かっていようとも

夕暮れからかなり時間がたち

夜の静寂は過ぎ去った

眠りと静けさが過ぎ去った時

私達は光に向かって目を開ける

エディス・ヒックマン・ディヴォール

背を伸ばし、頭をもたげ、夕暮れに向かって歩いて行こう。

2月17日

私は勇士に栄冠を授け、民の中から選ばれたものを高く上げた。(詩篇 89・19)

私たちの命の神がおられるのに、私たちの背負う荷物が肩に食い込み、重くのしかかることがあります。道が陰うつで果てしなく、空が灰色で恐ろしく思われ、私たちの生活に歌がなく、心は寂しく、魂は勇気を失う、そんな日々があります。

道を光にあふれさせてください。私たちはあなたにお願いいたします。約束に満ちた天に私たちの目を向けさせてください。私たちの心を勇敢な音楽へと向けてください。いろいろな時代の英雄たち、聖徒たち、一般民衆と仲間であるという意識を与えてください。そして、人生の旅路で私たちと共に旅をしているすべての魂を、私たちが元気づけることができるようにして下さい。

私たちの思い煩いで切りさかれた袖口を、永遠の静けさで繕ってください。

2月19日

だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで充分である。(マタイ6・34)

ある晩、私は6人の屈強な男たちをも押しつぶすほどの重い荷物を、一人で背負ってよろよろしている自分を見ました。全くの疲労のため、それを下に置き、つくづく眺めました。そして、それがみんな借りてきた物だったことに気づきました。その一部は翌日の荷物であり、他の者はその次の週の重荷でした。私を今、押し潰そうとしているのは、みんな私が借りてきた重荷だったのです。なんと愚かな、古めかしい(現代的でもある)大失敗だったことでしょう。

F・W・ボーム



2月27日

しかし、主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ。  
(イバクク 2・20)

神がおられる。自然界のすべてが叫んでいる

空に色どられた神を見る

花咲く春に神を見る

鳥たちが歌うとき、神に聞く

流れる大海に神を見る

実り豊かな平野に神を見る

ひょうや雪に神が印を押されているのを見る

小川の流れるところに神を見る

上昇する雲に神を見る

雷の鳴り響く時、神に聞く

朝の光輝く時、神を見る

夕日の傾く時、神を見る

山の高さに神を見る

とても小さい者の中にも神を見る

戸外のいたるところで神を見る

私は感じている。そして知っている。神がおられることを

2月28日

われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。(使徒行伝 17・28)

ソクラテスはかなりの年になった時、楽器の演奏を習い出しました。…プルタルクは70歳から80歳の間で、ラテン語の勉強を始めました。…グラッドストーンは70歳の時、新しい言葉の勉強を始めました。芸術家のティティアンは99歳まで生きたが、最後まで絵を描き続けました。フランクリンは、55歳になるまで哲学的な追及を始めませんでした。…肉体と違って精神は、年とともに衰えませんが、たとえ年をとっても、私たちは死ぬまで豊かに創造的に生き続けることができるのです。

ああ、その時、私たちは空しく座って言うだろうか。

夜が来た。もう昼ではない。

若い時とは様子が多少違っているが、老人には若い人より機会がある。

夕方のたそがれが薄れていくにつれて、空は昼間には見えない星で満ちる。

私たちの人生は、終わりまで豊かで、新鮮でさわやかに感動したものでありうる。